

R3年度 主題研究

「スクールワイドPBSに もとづく教育実践」

研究部

研究の流れ

R 2 年度 研究主題

SWPBSの考え方を取り入れた

教育実践・授業改善

～メンターチームによる授業構想を通して～

R 3 年度 研究主題

スクールワイドPBSに

もとづいた教育実践

みやざきの発達障がい教育推進事業

①学校の「特別支援教育力の向上」

(ア) 学びの場ごとに焦点化した巡回支援

(イ) サブエリアコーディネーターの養成と活用

(ウ) スクールワイドPBS実践支援校訪問

(エ) 「授業のユニバーサルデザイン化」マニュアル作成

②教員の発達障がい教育にかかわる指導力向上

(ア) 初任や経験の浅い教員を対象にした研修会

(イ) 大学と連携しての実践に即した教授法の検討会

③関係機関との協同

(ア) 「相談支援ファイル」の改定と普及

(イ) 「個別の教育支援計画」の活用促進と「学校支援」

スクールワイドPBSとは

School -Wide Positive Behavior Support
学校全体で取り組むポジティブな行動支援

PBS（ポジティブな行動支援）（Crone & Horner, 2003, p.vii）

- ①児童生徒のできている面に目を向けようとする
- ②問題行動が起きてから対処するのではなく、問題行動が起きないように予防的な側面に目を向ける

学校全体で共通目標で実施 → スクールワイドPBS

学級全体で実施 → クラスワイドPBS

小集団で実施

個人で実施

PBSは、望ましい行動を増やすための取組なので、どのような規模でも、場面でも実施可能です。

子どもたちの指導をする上で・・・

どうしても
気になってしまう

気になるのは
人間の心理的な習性

落とし穴



気になる行動ばかりに目を向けると…

「わからない」「できない」事が多い。
注意したり、叱ったりすることが多い。



さらに強く！

「どうにか
しなければ…！」
とあせってしまう。

マイナスの
サイクル

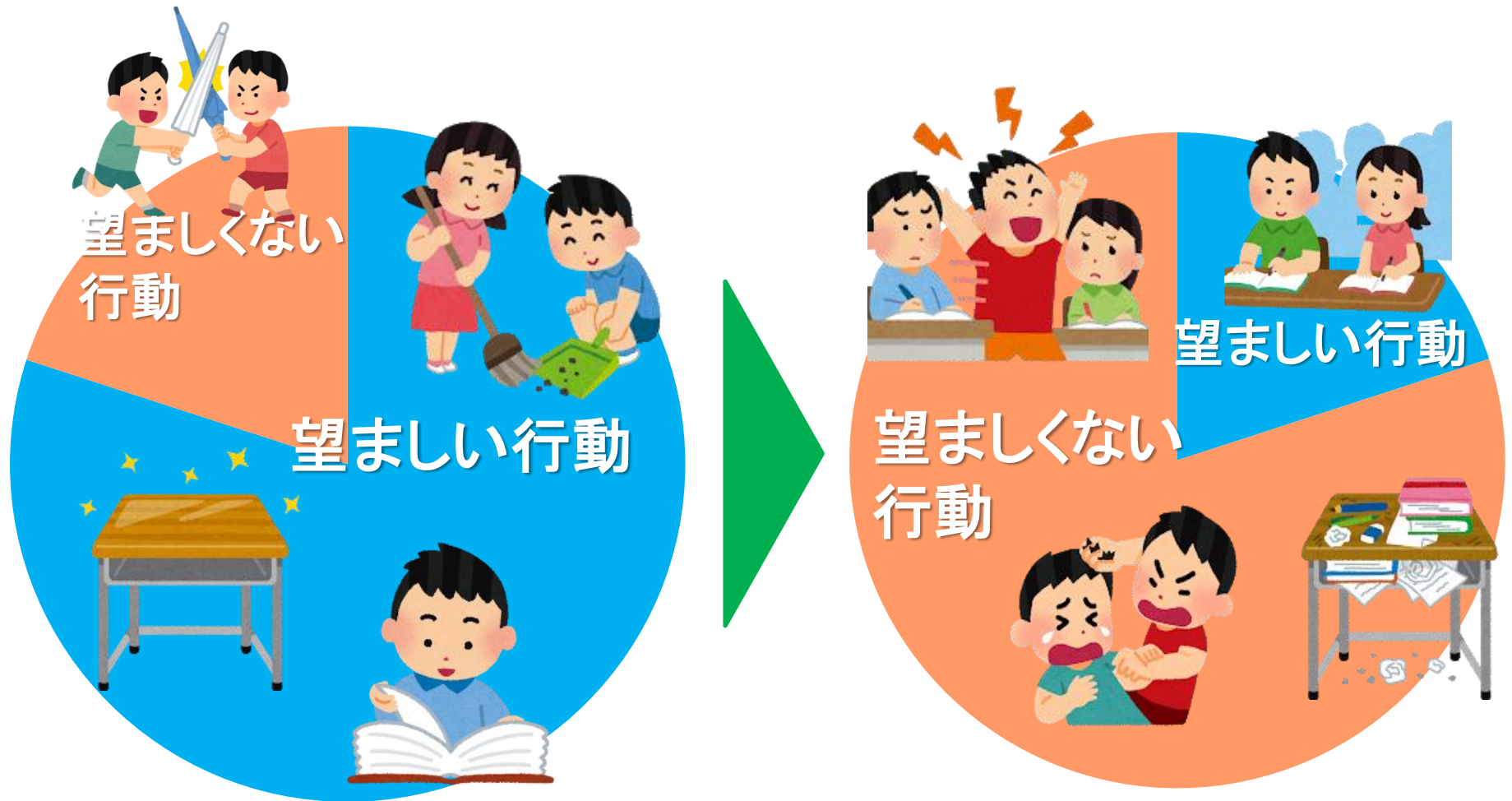
注意されて嫌になる。
自信がなくなる。
(自尊心の低下)



やる気がなくなったり、
反抗的な言動をとる。



そんな状態が続くと…



問題となる行動の多い子ほど・・・



問題となる行動が目につく子どもは、失敗経験が多かったり、わからない事やできないことが多かったり、よく注意を受けたりして、自分に自信がない子どもが多いように思います。



望ましくない行動が気になるのは、人間の習性として仕方がない。

だからこそ、あえて望ましい行動に注目する意識を持つことが大切であり、そうすることで少し気持ちも楽になります。



ポジティブな行動支援(PBS)では

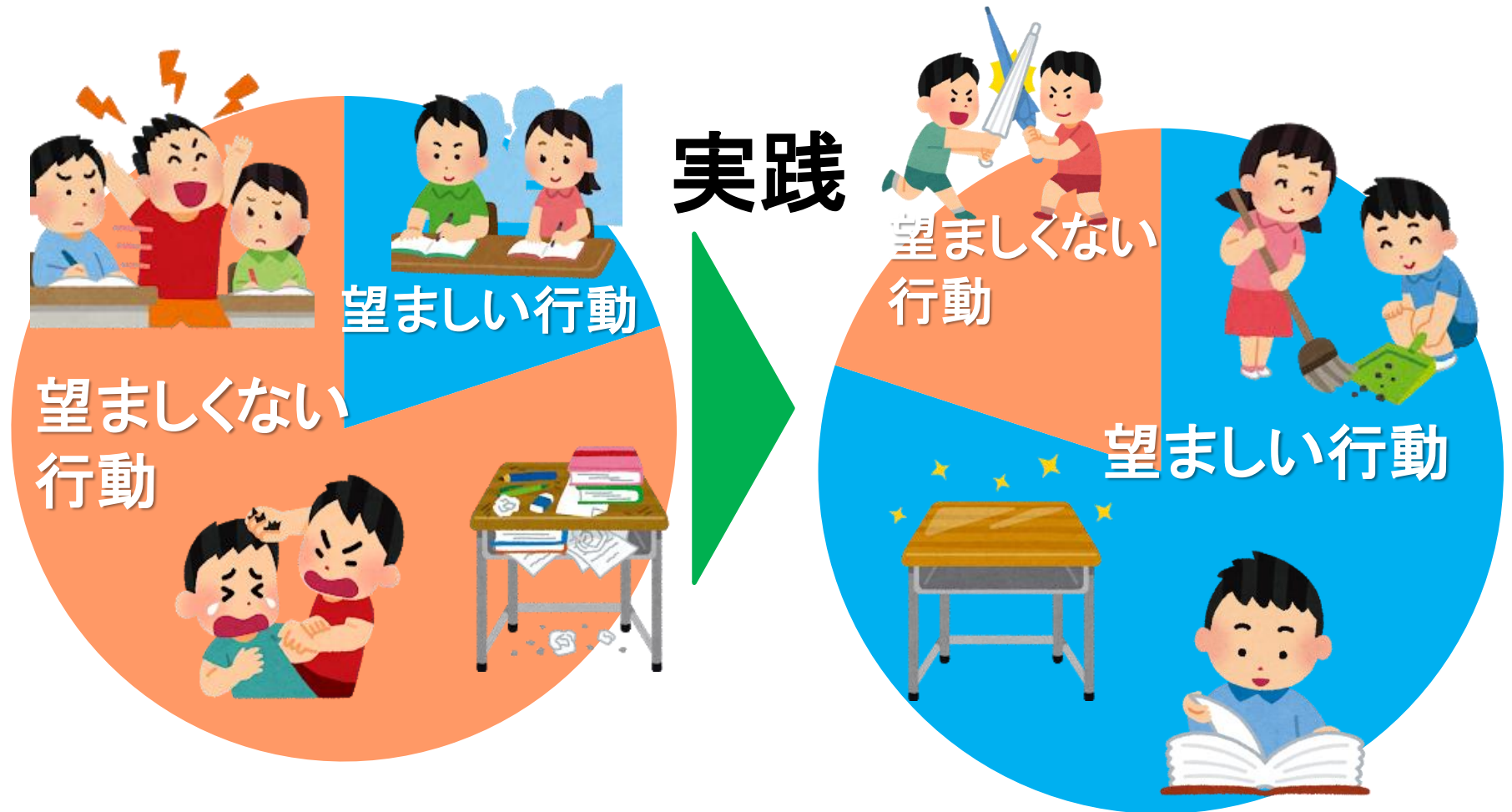


ここに注目！

子供の行動や心理特性を理解し望ましい行動に注目し、できていることを認めたり、活躍する場を設定したり、授業改善で参加できる場面を増やしたりするなどポジティブに関わる事で望ましい行動を増やしていく方法です。

**積極的で
予防的な対応**

ポジティブな行動支援(PBS)では

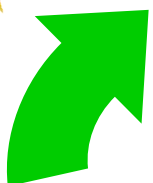


望ましい行動（良い行動）を学習することで、
相対的に望ましくない行動（困った行動）が
少なくなる、と考えます。

ポジティブな行動支援の目指すもの

スタート！

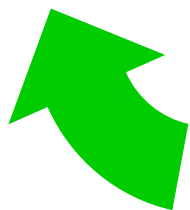
望ましい言動を見つけ、しっかり褒める。(認める。) 正しい行動を教える。



指導の仕方がわかる。
もっといいところを見つけようとする。

プラスの
サイクル

子どもは自分に
自信がもてる。
どうすればいいかわかる。



前向きで、
意欲的になる。



身の回りのポジティブな行動支援！

靴箱の靴が
整頓できて
いる子を認
めた

教室で大き
な声であい
さつした子
を褒めた

そうじを
丁寧にして
いる子を
褒めた

発表回数
が多い子
を褒めて
いる

図書室の本の整
理の仕方が良
いので、感謝の気
持ちは伝えた

校内放送がか
かると静かにな
るので称賛
している

友だちに思いや
りのある行動を
した子に帰りの
会で拍手する

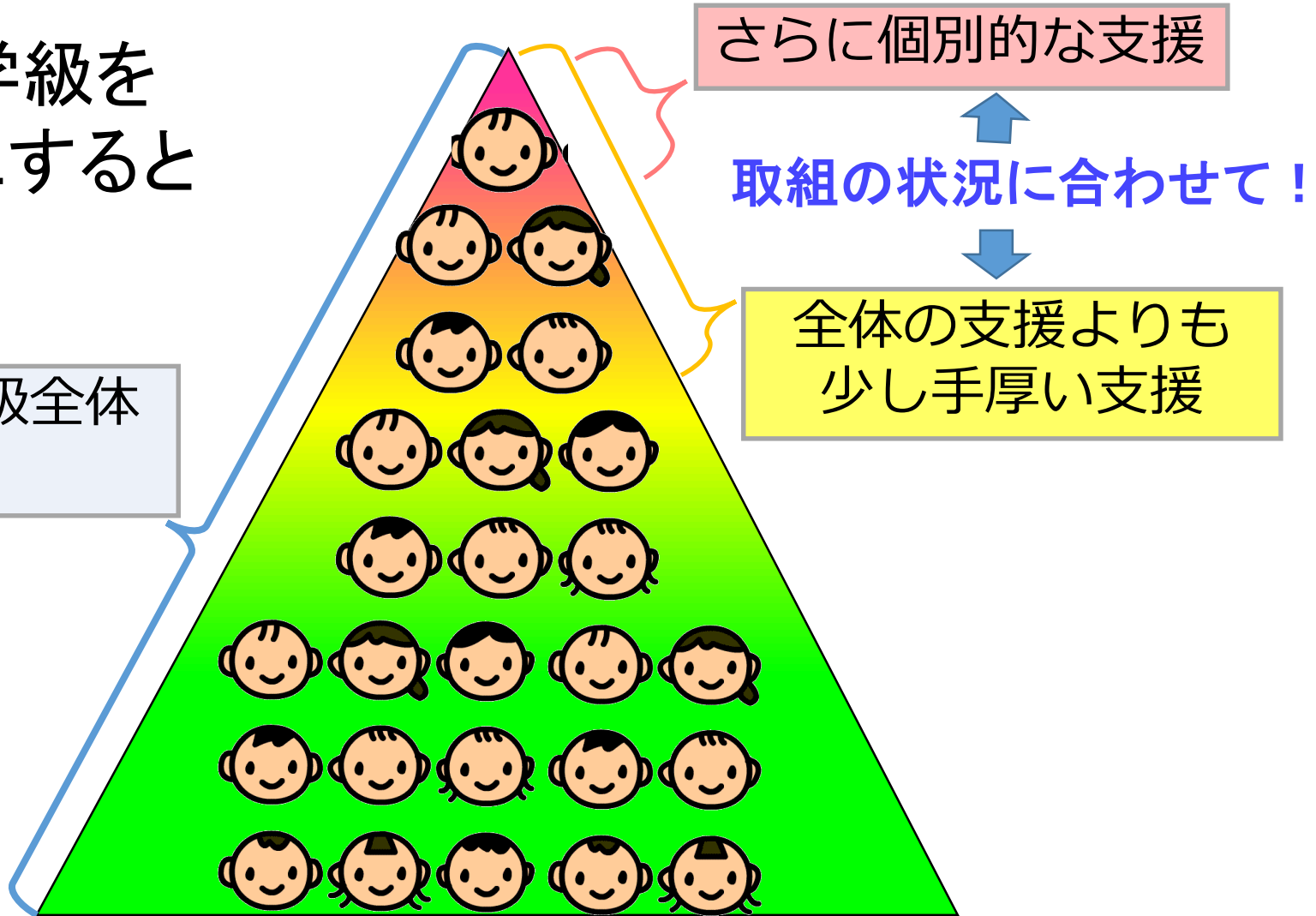
**褒めたり、認めたりすること（PBS）が、すでに
定着してる場面も多くある。**

スクールワイドPBS

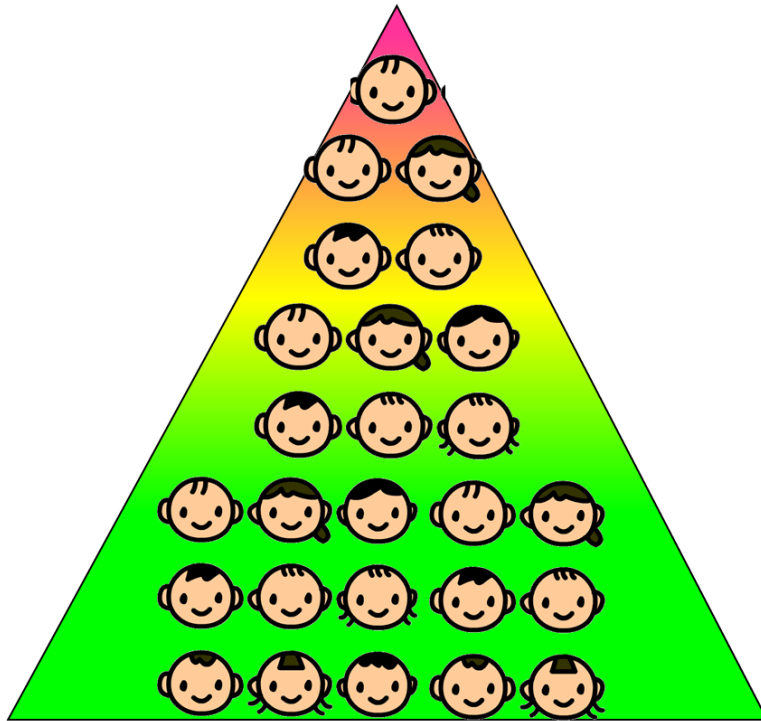
通常の学級を
モデルにすると

まずは、

学校・学級全体
への支援

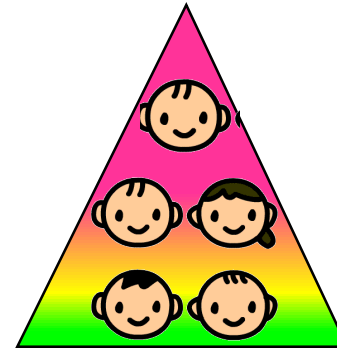
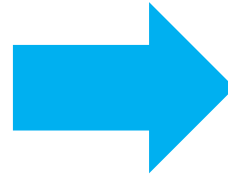


時間の流れ



第1層支援

- ・全ての児童生徒を対象として
- ・うすくひろくまんべんなくサポート
- ・共通理解，指導基準統一がポイント



第2・3層支援

- ・1層支援のみではうまくいかない
- ・手厚く個別的にサポート

校内の人的資源
どこへ投入するか

R 2 年度の取組 ①マトリクス作成

①マトリクス作成

「めざす児童像」をもとにして、全教職員で児童に「どうあってほしいか」期待像を共通理解した。

足並みをそろえる、共通の指導目標をもつ。(収録P139)



心豊かに知性をみがき、郷土を愛するたくましい子どもの育成			
	進んで勉強しよう (「わかる」「できる」「つかう」 「つくる」楽しい学習)	元気よく活動しよう (「あんぜん」「あいさつ」 「あとしまつ」の心地よい生活)	仲良く助け合おう (みんなで互いに「やさしく」 「なかよく」「あたたかく」)
授業	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを書こう。 分からないところは質問しよう。 	<ul style="list-style-type: none"> 「はいっ」と返事をしよう。(1月) 立腰をしよう。(1月) 	<ul style="list-style-type: none"> 相手の話をうなずきながら聞こう。(1 1月)
休み時間	<ul style="list-style-type: none"> 次の授業の準備をしよう。 1分前着席、チャイム黙想をしよう。(2月) 	<ul style="list-style-type: none"> 廊下は右側を静かに歩こう。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分からあいさつやえしゃくをしよう。(3月) 「くん」「さん」をつけて名前をよぼう。(12月)
そうじ	<ul style="list-style-type: none"> 『そうじだいすき』を守ろう。(9月) 		<ul style="list-style-type: none"> 友達のがんばりを見つけて伝え合おう。

R 2年度の取組 ②キャンペーン実施

②キャンペーンの実施(計3回)

マトリクスの特定の項目を特に意識して取り組む週間

9月「そうじだいすきを守ろう」

11月「相手の話をうなずきながら聞こう」

2月「1分前着席、チャイム黙想をしよう」

◎事前評価

・子どもたちがどの程度できているか実態把握

(研究収録P149)

→簡単なやり方で

→低頻度で(1日1回程度)

→毎日のルーティンワークの中でやる

R 2年度の取組 ②キャンペーン実施

◎キャンペーン中の取組

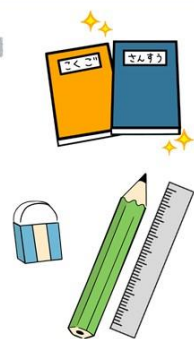
教室でスライドを使った教示(2月チャイム前着席)

1分前に着席し、落ち着いている6年生の
写真の提示

ふんまえ こうどう
1分前に行動するためには・・・

とけい うご
時計を見て動く

トイレやじゅんびは、
さきにすませておく



取組の意味・メリットについて子どもたちに伝える

R 2 年度の取組 ② キャンペーン実施

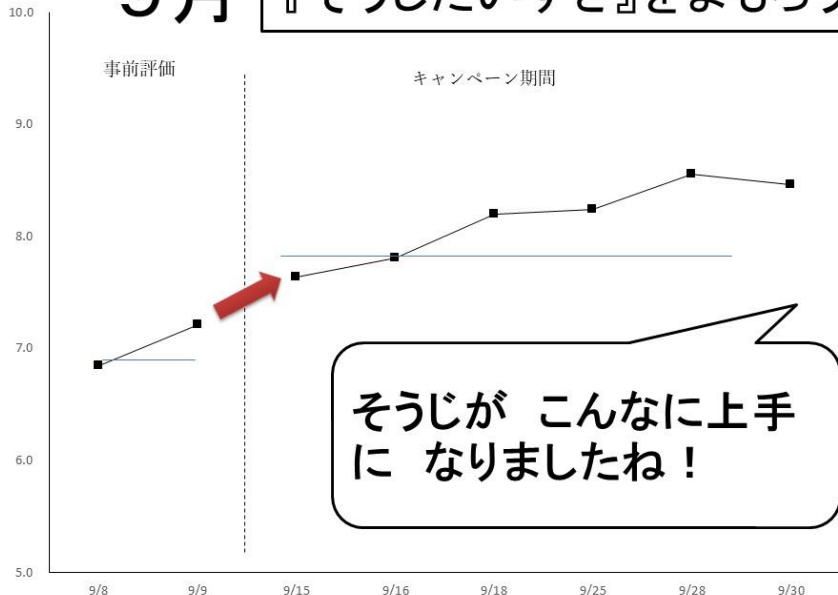
キャンペーン中の評価

- ・子どもたちのがんばりを認めながら評価
- ・即時フィードバック (研究収録P165)



キャンペーン後のフィードバック

9月 『そうじだいすき』をまもろう

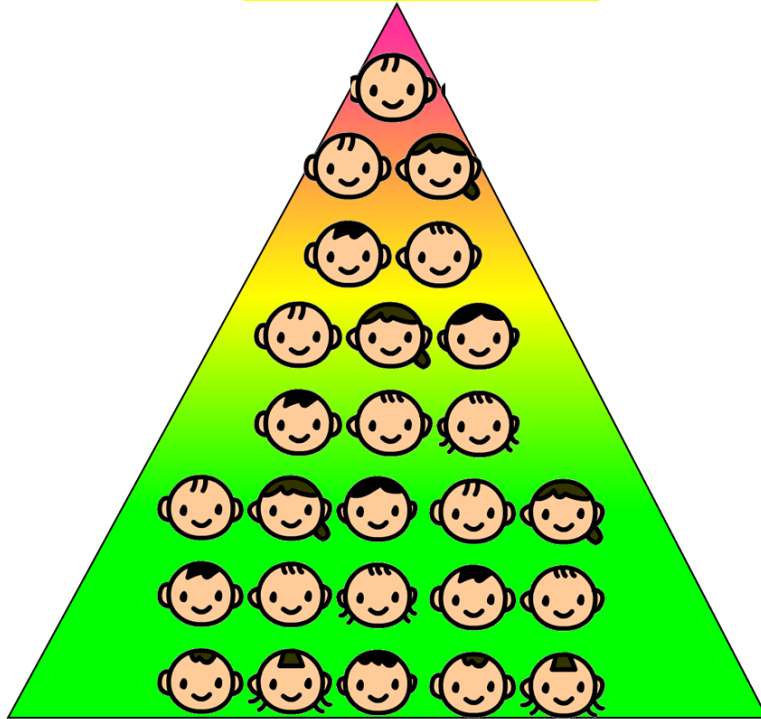


11月 うなずきながら 聞こう



R3年度の取組

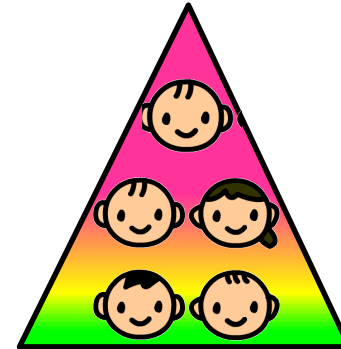
R2・3年度



第1層支援

- ・全ての児童生徒を対象として
- ・うすくひろくまんべんなくサポート
- ・共通理解，指導基準統一がポイント

R3年度



第2・3層支援

- ・1層支援のみではうまくいかない
- ・手厚く個別的にサポート

校内の人的資源
どこへ投入するか

R 3年度の取組のテーマ……

コラボ

コラボ その1 マトリクスの作成

1 第1層支援の定着と充実

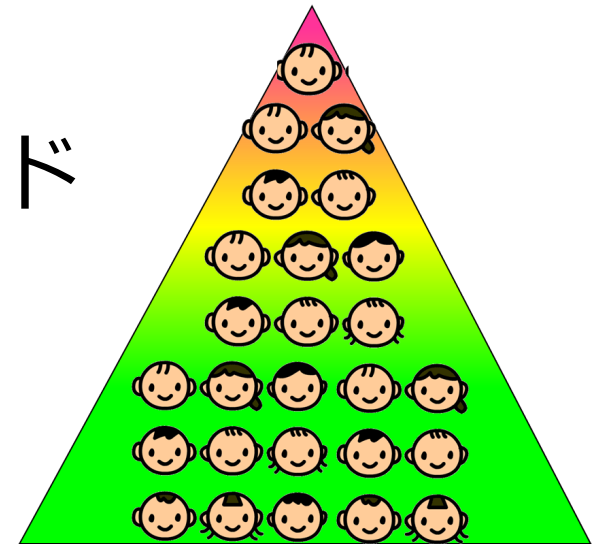
◎ マトリクスの作成

	心豊かに知性をみがき、郷土を愛するたくましい子どもの育成		
	進んで勉強しよう	元気よく活動しよう	仲良く助け合おう
授業	学習部	保体部	生徒指導部
休み時間			
その他			
	特別支援部		

コラボ その1 マトリクスの作成

- ①校内研修でマトリクスの作成
- ②児童への周知
- ③クラスワイド、スクールワイドでPBSにもとづいた教育実践

R2・3年度



第1層支援

コラボ その2 月目標との連動

◎ マトリクスと月目標との連動

- 4月 「次の授業の準備をしよう」 (学習部)
5月 「廊下は静かに右側を歩こう」 (生徒指導部)
6月... 新たなマトリクスの項目で (保健体育部)
7月... // (学習部)
9月... // (生徒指導部)
...
...

集会活動も P B S を意識した内容を盛り込んだものに...

コラボ その3 キャンペーン

◎ マトリクスについて重点的に取り組む期間

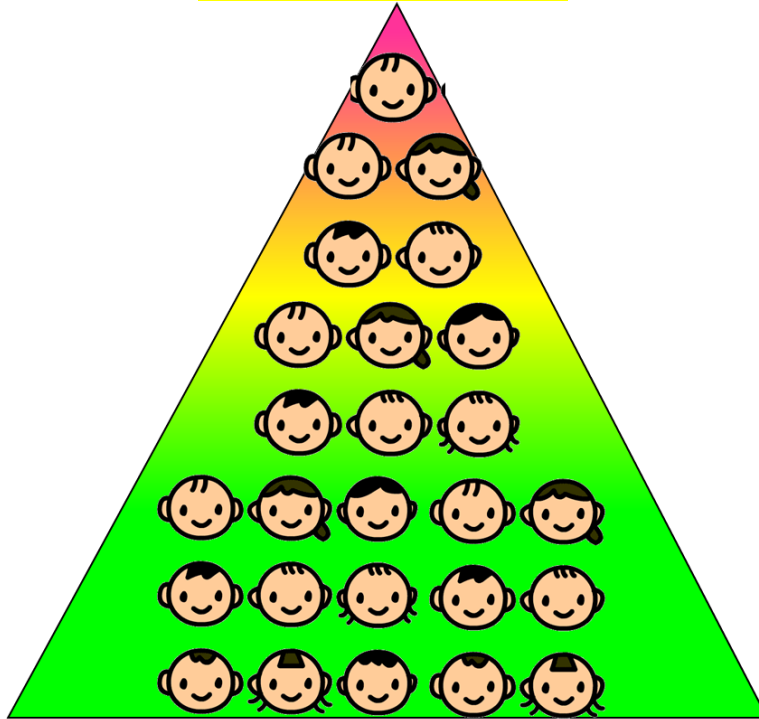
7月	学習
11月	学習
2月	生徒指導

に関するマトリクスの項目を予定

キャンペーン中の集会活動については一緒に...

R3年度の取組

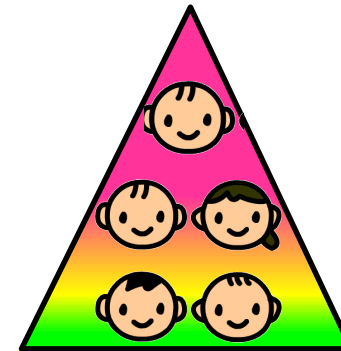
R2・3年度



第1層支援

- ・全ての児童生徒を対象として
- ・うすくひろくまんべんなくサポート
- ・共通理解，指導基準統一がポイント

R3年度



第2・3層支援

- ・1層支援のみではうまくいかない
- ・手厚く個別的にサポート

校内の人的資源
どこへ投入するか

R 3年度の取組

2 第2・3層へのアプローチ

◎記録シートの導入

問題行動記録シート

日付 _____ 月 _____ 日 (_____)

記録者 (_____)

児童名 (_____ 年 _____ 組 _____)

場所

- 教室
- 廊下
- トイレ
- 体育館
- 運動場
- 校外
- 教科教室 (_____)
- その他 (_____)

時間

- 始業前
- 1 時限
- 2 時限
- 3 時限
- 4 時限
- 給食
- 昼休み・掃除
- 5 時限
- 6 時限
- 放課後
- 休み時間
- その他 (_____)

問題行動 ※重複する場合は全てにチェック

- 暴言
- いやがらせ
- 暴力
- 器物損壊
- 私語
- 授業妨害
- 離席・徘徊
- 指導への不従事
- その他 (_____)

備考

コラボ その3 行動記録シートの導入

2 第2・3層へのアプローチ

- ①研究部が記録シートを配布。
該当の問題行動があった場合に各教員が記録
 - ②学年会で記録シートを持ち寄って、気になる児童についての報告、対応策を検討
- 記録シートを当該学年のファイルにとじる。



コラボ その3

2 第2・3層へのアプローチ

③学年会後、研究部がファイルを回収すると同時に、学年主任の先生方から情報を集める。



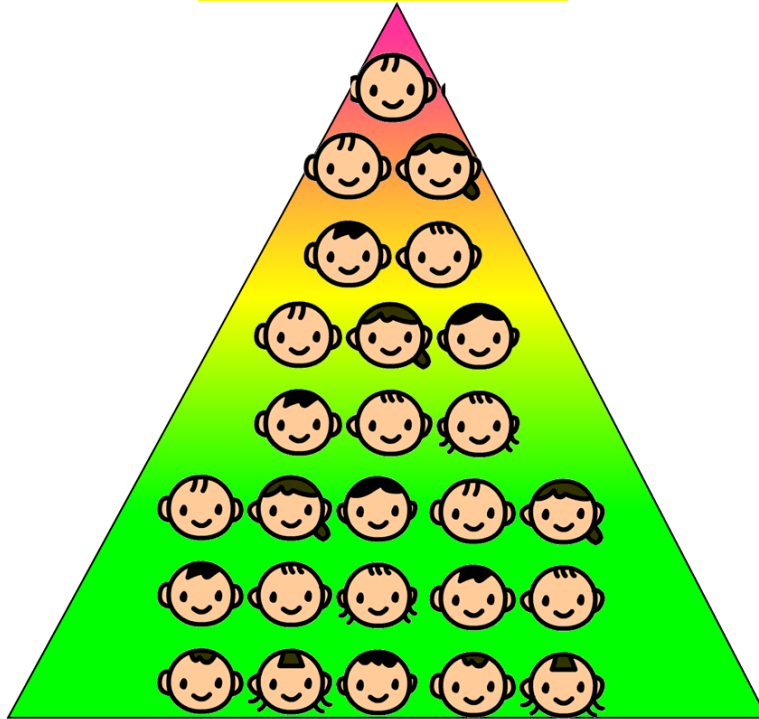
④学年会で対応後も、問題行動の減らない児童や緊急度が高いと考えられる児童は、校内支援委員会、はぐくみの会を活用し、児童の様子ของ報告、対応の検討をする。



④専門機関への協力を要請する。

R3年度の取組

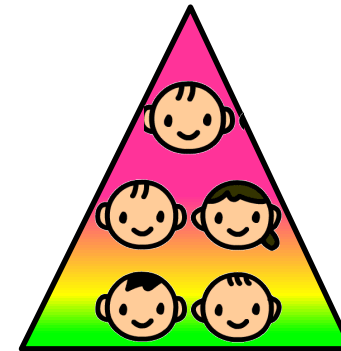
R2・3年度



第1層支援

- ・全ての児童生徒を対象として
- ・うすくひろくまんべんなくサポート
- ・共通理解，指導基準統一がポイント

R3年度



第2・3層支援

- ・1層支援のみではうまくいかない
- ・手厚く個別的にサポート

校内の人的資源
どこへ投入するか

1 学期の計画

4／15 主題研①

「本年度の主題研について」

5／19 主題研②

「スクールワイドPBSについて理論研」

講師：宮崎大学 半田先生

5／26 マトリクス作成

6／2 マトリクスの職員への周知

6／23 7月キャンペーン提案予定

初任研
指導案
検討